

購読の申し込みは
日本医労連へ

購読料 年間1,500円(送料込)
(組合員の購読料は組合費に含む)

送金口座 中央労金荒川支店(普通預金)1123296
郵便振替00160-6-84866

ホームページ <http://www.irouren.or.jp/>
電子メール n-ask@irouren.or.jp

医療労働者

医療・介護・福祉労働者の生活と権利、国民の命と健康を守る

第1718号 2019年10月10日

編集・発行
日本医療労働組合連合会
〒110-0013 東京都台東区入谷1-9-5
日本医療労働会館3階 TEL03(3875)5871
発行 毎月2・4木曜日

(昭和36年9月15日)
(第三種郵便物認可)

自民・立憲・国民・共産・社民
が出席。れいわもメッセージ



めざせ！1500円、全国一律
全労連が国会内集会

て、党の最賃政策や考え方を紹介。自民党内に結成された最賃議連の事務局長を務める務台議員は「全国一律と最賃引き上げについて党内世論が広がっている。最賃の地域差は国が地域格差を助長するようなもの」、医療・介護にも触れ「全国同一報酬のもとで賃金の大きな地域差は問題だ」と発言。

「全国一律を党の政策にできるような頑張る」とあいさつしました。その他の野党もともに暮らせない賃金実態や中小企業対策の脆弱さにふれ、地域間格差是正と大幅引き上げを訴えました。



る。地方自治体関係者が、過疎化を食い止め、人口減少に歯止めをかけ、人口増加に転じさせるための努力を続けているときに、冷や水を浴びせることになる。「医師の働き方改革の方向性も加味して」検証・対策ともしているが、結局のところ、絶対的な医師不足の現状を固定化させ、医師数に合わせたベッド削減をすすめるものに他ならない。

増員、処遇改善で提供体制の拡充こそ

地域の実情も、人手不足の中で必死に地域医療を支えている医療現場の声もともに聞かず、一方向的な分析に基づく要請は撤回すべきであり、「強制」ではないと言うならば、公立・公的病院の地域医療を守る観点を尊重すること強く求める。いま政府が行うべきことは、国民のいのちと健康を危険にさらす一方向的な病床削減ではなく、医師・看護師・介護職員をはじめとした医療・介護の担い手を増やし、国民誰もが、いつでもどこでも、安心して十分な医療や介護を受けられるような体制を、国と自治体の責任で充実させることである。毎年過去最高額を更新する軍事費予算や、不要・不急の大型開発予算の見直し、大企業や資産家への適切な課税などで、国民が安心して暮らし続けるための予算は確保できるはずである。日本医労連は、国民と共に医療・介護要求を掲げ、引き続き地域医療を守る運動に全力を挙げる決意である。

以上
*小見出しは編集部

この巨災は一刻も早く国民の手で払い落とさなければ。

厚労省

再編・統合へ
424病院名指し

●厚労省による病院名指しに対し、日本医労連は抗議談話を発表しました。

地域の実情や現場を無視した
病院再編・統合に強く抗議する

二〇一九年九月二七日 書記長 森田進

厚生労働省は9月26日、再編・統合の必要性があるとして424の公立・公的病院等の名称の公表を強行した。対象は1455の公立・公的病院等で、2017年度の報告データを基に、「診療実績が少なく」「他の医療機関と競合している」といった分析を行い、病床数の削減・変更や診療体制の見直しを求めている。

地域の医療や介護を取り巻く実情、医師不足などによる診療実績への影響などもまったく考慮されていない、いわゆる「机上の空論」である。公立・公的病院では、民間病院が受け入れづらい不採算部門の診療科や、地域の医療体制を踏まえたうえで特化した診療科の設置など、特殊性を持った診療を請け負っている施設も多いが、そのような特性を個別に判定することもなく、病床稼働率や手術件数、救急車の受入人数などの数値だけを持って分類するのは、現場の実情も考慮しない機械的な分析である。また、直近の単年度の診療実績のみを取り上げた、ピンポイントデータを基に作成された分析であり、医師確保状況によって診療実績は大きな影響を受けるのに、経年的な変化は考慮されていない、極めて乱暴な分析である。そもそも現時点の診療実績に基づいたデータによって病床数を削減するとして、いったん再編・統合となれば、その後病床数を増やすことは、施設的なハード面から困難となり、すべての地域において今後の人口増加や医療需要の変化には対応できなくなることは明らかである。

「天災は忘れた頃にやってくる」は、もう死語と化している。地震もしかり、今年も豪雨、台風が日本列島を襲った。8月末の九州北部豪雨、9月9日未明に関東に上陸した台風15号、その後も息つく間もなく17号、18号が襲った。続けざまの災害警報に国民は安心していられない。グローバルな経済活動による地球温暖化の深刻さを肌身で感じる▼こうした国難に対して政府の姿勢はどうか。台風15号では、千葉県に大規模停電による生活苦難をもたらした。安倍首相は国民の苦難をよそに内閣改造を優先、対応の遅れと政治空白を起したとして批判を浴びている。財界にしか目が向かない姿勢が透けて見える▼一方、地球温暖化対策で、9月23日に国連の「気候行動サミット」がニューヨークで開かれた。これに前後して、世界各地で若者が「グローバル気候マーチ」で行動した。日本でも5千人以上が各地で行動した。若者の行動に光を見る思いだ。マスメディアがこれを報道したのは、ほんの一部。報道で見たのは、政府の後ろ向きな姿勢と新環境大臣の「一動ばかり」発足した改造内閣は改憲派がずらり。全世代型社会保障検討会議も、これまで社会保障や労働法制の改悪を牽引したメンバーがずらり。国民にとつてもはや現政権の継続は国難ではない。

看護師めぐる課題は 世界共通

NNU「世界看護師連
帯集会に参加して」

全米看護師連盟（NNU）が主催した「世界看護師連帯集会」が9月12日～15日に開催され、日本医労連もNNUからの招待を受けて参加しました。会場はサンフランシスコ。25力国から1600人の看護師と世界看護師連盟（G NU）加盟国の労働組合のリーダー等が参加。日本医労連からは、森田中央執行委員長、寺園中執、八木沼書記局長が参加しました。

翌13日から15日の閉会まで、7つのテーマでのトークセッションをはじめ、課題ごとのセッション（いわゆる分科会）、途中にデモ行進も盛り込まれ、スケジュールは超過密なものでした。

世界中の看護師は連帯しよう

今回の集会の開催趣旨は、国は違っても世界中の看護師は「公的医療の改善」「劣悪な労働環境」「低賃金」等共通の課題を抱えており、その根本的な原因は「新自由主義」「資本主義社会」による生産性向上と利益追求にある。その大きな壁に向かって、世界中の看護師が手を取りあい運動すれば変えることができる、というもの。「すべての人々に医療サービス！」「世界の看護師が連帯を！」がスローガンに掲げられていました。

日本医労連のとりくみを発表

森田中央執行委員長は、本会議3日目に開催された「フエミニズムの反乱」世界の労働者が男女間の平等のために「団結」というセッションのパネリストとして参加し、日本医労連の取り組みを発表。

日本医労連が1957年の結成以来、一貫して、賃金・労働条件の改善と、社会保障の拡充を求め運動を続けていることを紹介しました。

「数は力」であることは世界共通なのだとこのことを実感しました。

看護師をめぐる課題は、万国共通です。今回の国際会議は、世界中の看護師がどのような問題に直面し、どのような問題意識を持ち、運動を展開しているかを観、知り、感じることができた、素晴らしい機会でした。（森田しのぶ・寺園通江・八木沼菜穂）

90%と高く、学生も加入（学生からの徴収は無）していることが紹介され、賃金はもちろん、比率法患者看護師においても確立していること、組織拡大をすることで、政治政策をも動かすことができることが報告されました。

「数は力」であることは世界共通なのだとこのことを実感しました。

看護師をめぐる課題は、万国共通です。今回の国際会議は、世界中の看護師がどのような問題に直面し、どのような問題意識を持ち、運動を展開しているかを観、知り、感じることができた、素晴らしい機会でした。（森田しのぶ・寺園通江・八木沼菜穂）

8月28日、高齢者介護を中心に事業展開しているかわち野福祉会にて、大阪医労連かわち野福祉会分会が結成されました。

9月19日、北海道の血液センターでは、3つ目の単組となる北海道赤十字血液センター札幌労働組合が結成されました。

森田中央執行委員長は、本会議3日目に開催された「フエミニズムの反乱」世界の労働者が男女間の平等のために「団結」というセッションのパネリストとして参加し、日本医労連の取り組みを発表。

日本医労連が1957年の結成以来、一貫して、賃金・労働条件の改善と、社会保障の拡充を求め運動を続けていることを紹介しました。

「数は力」であることは世界共通なのだとこのことを実感しました。

看護師をめぐる課題は、万国共通です。今回の国際会議は、世界中の看護師がどのような問題に直面し、どのような問題意識を持ち、運動を展開しているかを観、知り、感じることができた、素晴らしい機会でした。（森田しのぶ・寺園通江・八木沼菜穂）

9月19日、北海道の血液センターでは、3つ目の単組となる北海道赤十字血液センター札幌労働組合が結成されました。

結成大会では、組合代表者からの挨拶に続き、結成に至る経緯が報告されました。北海道赤十字血液センターでは移動採血車の献血業務において「時間外ありき」の運行計画の問題や人員不足によって年次有給休暇取得が難しい現状など改善をしないといけない問題があり、団体交渉を予定しています。結成大会の翌日には、早速、門前でのビラ配布を11人で実施しました。受け取りも良く、問い合わせもあり、労働組合の存在をアピール出来ました。

8月28日、高齢者介護を中心に事業展開しているかわち野福祉会にて、大阪医労連かわち野福祉会分会が結成されました。

9月19日、北海道の血液センターでは、3つ目の単組となる北海道赤十字血液センター札幌労働組合が結成されました。



圧巻のデモ行進に感動

会場ホテル前をスタートした1600人のデモ行進は圧巻でした。

主催者から配られた「赤いビブス」を全員が身に付け、「世界の看護師が連帯を！」「私たちの地球、私たちの健康！」のプラカードを掲げて行進。コールはあちこちからバラバラでしたが、それぞれ自分の心からの訴えを元気いっぱい叫んでいました。道幅いっぱい広がって、思い思いのコール、上着も赤一色、何とも見えぬ一体感。「今の医療制度はおかしい！自分たちが医療を変えるんだ！」「患者のために、医療のために、私たちはたたかう！」のエネルギーを強く感じる行動でした。

集会では、経営側による労働組合への弾圧や、フェイクニュースの発信等の妨害、そうした中でも「質の良い看護を提供したい」から、あきらめないで頑張っていることが紹介されるなど、労働組合の必要性が語られました。南カリフォルニアでは、看護師の70%以上が組合に組織化された結果、賃上げ、教育等が改善されています。

また、カナダは、看護師約50万人中、組合組織率は実に90%と高く、学生も加入（学生からの徴収は無）していることが紹介され、賃金はもちろん、比率法患者看護師においても確立していること、組織拡大をすることで、政治政策をも動かすことができることが報告されました。

「数は力」であることは世界共通なのだとこのことを実感しました。

看護師をめぐる課題は、万国共通です。今回の国際会議は、世界中の看護師がどのような問題に直面し、どのような問題意識を持ち、運動を展開しているかを観、知り、感じることができた、素晴らしい機会でした。（森田しのぶ・寺園通江・八木沼菜穂）

8月28日、高齢者介護を中心に事業展開しているかわち野福祉会にて、大阪医労連かわち野福祉会分会が結成されました。

9月19日、北海道の血液センターでは、3つ目の単組となる北海道赤十字血液センター札幌労働組合が結成されました。



大阪

かわち野福祉会分会



8月28日、高齢者介護を中心に事業展開しているかわち野福祉会にて、大阪医労連かわち野福祉会分会が結成されました。

医労連加盟の組合がある、医療生協かわち野からの転職者が多くいましたが、労働組合がない状態が続いていました。また、良い介護がしたいと就職しても、低賃金で離職が続いていました。現在の状況を改善し、職員も利用者が笑顔で過ごせるようにしたいという思いのもと、労働組合を結成する運びになりました。4人からのスタートとなりますが、「仲間を増やして大きくしたい」と強い決意が語られました。

北海道

北海道赤十字血液センター札幌労働組合



9月19日、北海道の血液センターでは、3つ目の単組となる北海道赤十字血液センター札幌労働組合が結成されました。

結成大会では、組合代表者からの挨拶に続き、結成に至る経緯が報告されました。北海道赤十字血液センターでは移動採血車の献血業務において「時間外ありき」の運行計画の問題や人員不足によって年次有給休暇取得が難しい現状など改善をしないといけない問題があり、団体交渉を予定しています。結成大会の翌日には、早速、門前でのビラ配布を11人で実施しました。受け取りも良く、問い合わせもあり、労働組合の存在をアピール出来ました。

10月から組織拡大・共済推進月間



この共済増えたいので勧めます

2019年 共済推進全国 交流集会 福島

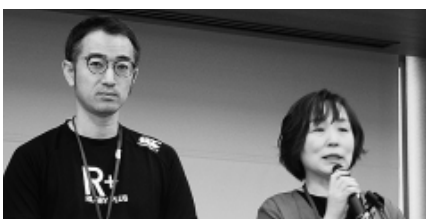
9月29日～30日に福島県磐梯熱海で開催した共済推進全国交流集会には、全国各地から200名が集い、実務研修や共済推進の経験交流を行いました。

第1弾 9月集会に200名



共済推進と制度検討を報告
続いて、基調報告と制度見直しの検討状況、本部OB制度の変更について、内田博之共済運営委員会事務局長が報告を行いました。

交流集会の1日目は、全体会からはじまり、基調報告や特別報告、制度学習が行われました。
集会の開催にあたって挨拶を行った森田しのぶ日本医労連中央執行委員長は、「最初に自然災害の被災者にお見舞いを申し上げます。消費増税など暮らしの厳しさや不安は大きく、助けあいの共済には期待が寄せられています。30期では組合員加入5万人を超えました。皆さんの奮闘に感謝します」と集会参加者を激励しました。



特別報告する北海道勤医労の田村さんと濱谷さん

→石川民医労192カ月連続拡大更新中



加入推進の重点課題では、①全国組合・県医労連での共済推進会議の開催と役員自らの加入、②新人の共済加入推進、③組織一律共済の推進、④継続時の型上げと火災共済の加入推進をあげて、奮闘を呼びかけました。
制度見直しの検討状況では、医療共済の収支を改善するために、運営委員会での検討内容を報告し、議論を呼びかけました。本部OB制度については、来年7月からの制度実施と変更点・注意点などが報告されました。

日本医労連 組織共闘局

米沢 哲 局長アピール



日本医労連は、2019年5月の組織現勢調査で組合員数が17万3,320人となり、11年ぶりの減勢となりました。この間、組織拡大を重点課題として位置付け取り組みをすすめてきたにもかかわらず、連続増勢が途絶えたことは非常に残念なことです。しかし、この結果から得られた教訓や、結果には反映されない成果を今後の組織拡大・強化の取り組みにつなげ、新たな一歩を踏み出していくことが再び連続増勢を築いていくうえで重要な課題となります。20万人医労連に接近するには、秋闘で6,000人(組織数の約3.5%)の拡大が必要です。すべての単組・支部で組織拡大を第一義的課題に位置づけ、組織拡大に取り組む構えをつくって「秋の拡大月間」に臨みましょう。

●毎月拡大にチャレンジ

すべての組織が組織拡大を重点に位置づけ、点検と報告を強めます。朝宣やニュースの発行など組合活動を知らせる取り組みを地道に広げ、加入の呼びかけの量を圧倒的に増やすことを重視し、毎月拡大にチャレンジしましょう。

●非正規雇用の仲間の拡大

すべての組織で非正規の組織化を位置付け、無期転換チラシも活用して、組合に入って安定雇用と処遇改善を実現しようと呼びかけを広げます。また、同一労働・同一賃金のスタートに向け、全労連の「非正規差別NG」学習セットを活用しながら職場で学習をすすめ、要求実現と結び付けて非正規雇用の仲間の拡大をすすめましょう。

●転退職者の継続加入

転退職等による脱退者数は年間1万人を超え、その数は年々増加しています。転退職者の継続加入は、新人加入100%に匹敵する取り組みであり、20万医労連達成のためにも不可欠です。すべての組織で転退職者に、医労連共済の継続加入・新規加入を呼びかけ、個人加盟ユニオンへの継続加入を推進します。

●医労連共済の活用

非正規や転退職者向けのチラシも活用し、医労連共済を活用した取り組みを一層強めます。組織拡大月間における共済学習会の取り組みを重視します。

●新人拡大に向け、秋から準備

未加入となっている19年度入職の新採用者に対して、秋の月間で加入呼びかけをすすめます。組合の集会・行動に参加を呼びかけ、来春の新人拡大に参加する青年を広げましょう。

●医師への加入呼びかけ

医師に対して、過労死・過労自殺をうむような働き方を変えようと、勤務医への呼びかけチラシを手渡し、労働組合加入を積極的に働きかけます。

6000人の仲間ふやしに踏み出そう!



秋の拡大月間がんばりました、全医労静岡センター支部

全体会に続いて、実務研修分科会と経験交流分科会にわかれて、学習・交流を行いました。

楽しく学習・真剣に討論

実務研修分科会は、セツト共済や火災共済の加入・給付

県民の置かれている状況や原発ゼロをめざす運動の到達など報告を受けました。
また、北海道勤医労の田村優実書記次長から「明日から使える!共済拡大戦略」として、29回の共済説明会に取り組み、836人の参加者を組織し、大きく加入を増やした経験が報告されました。
また、自動車共済の制度改定と、年金共済について制度学習も行いました。



個人共済の加入推進がんばりました

の実務、自動車共済の実務について学習しました。加入の実務では「緊急指令!申請書を書いてみよう」とテスト形式で申請書をつくる実習もあり、楽しく学習を行いました。給付の実務でも、給付90日限度の考え方や給付事例など具体例もまじえながら学習を行いました。

「休業5日以上は医労連共済の魅力。そのままだに」「加入推進で補えないのか」「見直しは現役で働く人を大切に内容に」など様々な意見が寄せられました。
加入推進では、「継続手続きで生命共済の魅力を伝えて型上げをしてもらっている」「新歓で共済プレゼントをしている。継続手続きで声かけをする」と継続と型上げにつながるで表彰されているのを知って「ヤル気になった」など様々な経験が紹介され、熱心に交流が行われました。
次回は10月10日・11日です。お待ちしております。

第10回 地域医療を守る運動全国交流会
住民の願いにもとづく、
地域医療の充実を！

（国が定める医療提供体制の中で、ベッド削減ありきの「地域医療維持」ではなく、
必要とする医療提供体制を確保し、住民の願いにもとづく「地域医療の充実」を目指す）

日時 2019年11月23日(土) 10:00～16:30 (受付9:30)

会場 東京TFTビル 東館9F 906会議室 (東京都江東区有明3-6-11 TEL.03-5530-5010)

参加費 500円(資料代として) ※会場に自費で用意した軽食(お茶付き)と別添1,000円いただきます。

09:30 受付開始
10:00 開会式(10分)
10:15 記念講演「地域医療再生の処方箋」
伊藤 友幸 氏 (地方自治体医療政策担当)

11:45 昼食休憩
12:30 基調講演「地域医療再生の処方箋」
伊藤 友幸 氏 (地方自治体医療政策担当)

13:15 地域医療を守る運動の全体会
●全国自治体医療政策担当の発表
●自治体の医療政策の発表
●自治体の医療政策の発表

16:15 まくわ
16:30 終了、解散

第10回「地域医療を守る運動全国交流会」実行委員会
〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1 TEL.03-5530-5010

ご参加を 社会保障の充実住民の願い 地域医療守る運動 第10回 全国交流会

今集会の記念
講演では、厚労
省より、公立・
公的424病院
「再編統合計画」

日本医労連は、中央社協協、
自治労連、地域医療機能推進機
構病院等を拡充する会ととも
に、第10回「地域医療を守る運
動全国交流会」を開催します。
国がすすめるベッド削減あり
きの「地域医療構想」ではなく、
必要なベッド数を確保する医療
提供体制の確立が求められてい
ます。全国各地の地域医療崩壊
の問題や、災害時医療・へき地
医療・疾病別医療などの在り方
を考えた上、医療提供体制の
縮小・削減をくい止め、地域医
療を拡充させていくことが重要
です。

11月23日(祝)10時～
東京TFTビル東館9F

**東京TFTビル
東館9F 906会議室**
東京都江東区有明3-6-11 TEL.03-5530-5010

アクセス

●りんかい線「国際展示場」駅下車 徒歩5分
JRL手線
JRL有明線
JRL有明線

●ゆりかもめ「国際展示場正門」駅下車 徒歩1分
JRL手線
JRL有明線
JRL有明線

●参加費は500円(資料代)です。昼食をご希望の方は、お弁当代(お茶付き)として別途1,000円いただきます。

申込み期限 第一次集約:10月31日(木) 最終集約:11月8日(金)

送付先 FAX 03-3875-6270 (日本医労連)

参加申し込み

が提案された中で、自治体病院
経営の現状や問題点をはじめ
「地域住民と共に歩む自治体病
院」について学びます。特別報
告では各地での具体的な運動の
経験を学びます。

住民要求にもとづく地域医療
の充実には、全国各地での運動
を持ち寄り、運動を前進させる
ことが重要です。

ご参加ください。



日本看護協会を訪問

9月スタートの「いのち
ちまもる」キャンペーン行
動に合わせ、日本医労連
本部も関係団体訪問・懇
談を開始。10月1日に日
本看護協会を訪問し、福
井トシ子会長はじめ役員
3名と懇談をしました。

日本医労連からは、「夜
勤改善・大幅増員署名」
や「診療報酬引き上げを
公立公的病院統廃合の動

「夜勤改善・大幅増員 診療報酬引き上げ」で懇談

求めるジャンボはがき」
を手渡し、賛同を求めた
ほか、世界看護師連帯集
会(NU主催)に参加
したときの様子や日本の
看護現場に対する海外の
反応を伝えました。

福井会長は、「看護師
不足の現状に対し、目指
している方向性は同じ。

秋の拡大月間はじまります

秋の組織拡大月間
(10月～12月)がスタ
ートしました。日本医
労連の秋の拡大目標は
6千人です。すべての
単組・支部で毎月拡大
に取り組み、組織拡大
を進めていきましょ
う。

医労連共済では、こ
の組織拡大月間にあわ
せて、単組・支部の共
済説明会に助成を行な
っています。助成は、
単組・支部の共済説明
会(1回30分以上・拡
大月間中2回まで対
象)に対して、参加者
1人につき500円です。
9月に開催した共
済推進全国交流会で
は、500円の助成が

医労連共済だより

併当を用意して説明会
を開催しているなど、
組織拡大・共済推進の
報告がされています。

取り組みの際には、
共済説明DVDをご活
用ください。DVDは
ノックアウト版で24分。
ショート版で9分。そ
の他にも制度ごとに視
聴できるようになっ
ています。DVDを活用
した説明会の「自前の
講師」にも、準備支援
の助成を行います。

共済説明会への助成
のほかに、説明会のそ
の場で複数加入があれ
ば、開催した単組・支
部に1万円分のクオカ
ードも進呈していま
す。

消費税率が10%に引き
上げられた10月1日、日本医
労連の専従中執として着任
いたしました川上真理理で
す。出身単組は奄美医療生
協労組です。「ペア取らず
して春闘は終わらない」「夜
勤のための勤務免除」など
というワードを連発していた
と言えば、「あいつかー」と思
い出している方もいらっしゃる
のではないのでしょうか。



**本部専従に
着任しました
川上 真理さん**
中央執行委員

私の住んでいた奄美大島は台風の通り道で、ひと夏に何度も
台風を経験します。その度に思い知らされるのが、自然の猛威
の前に人間は成すすべがないということです。でも人間のやる
ことなら、人間の力で解決することができます。それを教えてく
れたのが労働組合の存在です。今後も皆さんと共に、ひとりの
痛みも放置することなく、しつこくこだわり、諦めず声を上げ
続けていきたいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。

医療の眼

昨年の同じ時期に、
「『全国一律最賃』実現
の機運は高まっている」
とのテーマで「医療の眼」
を執筆したが、それから
1年が経過し、「隔世の
感」というには大げさか
もしれないが、全国一律
最低賃金を求める世論と
国会内外の声は、確実に
強い勢いを持って広がっ
ていると感じる。

■ ■ ■
昨年10月の地域最賃改
定でも、地域最賃Dラン
ク県すべてで、700円
台の県すべてが中央最低
賃金審議会の目安額を上
回る改定額を答申した
が、今年10月の改定を
めぐっては、やはり800
円前後の18県が目安額
から上乗せをした額を答
申し、さらに全国最下位
の鹿児島県が、全国一
引き上げを行ったため
なんと16年ぶりに最高
額と最低額の差が縮まる
結果となった。

■ ■ ■
このような地域最低賃
金審議会の動きの背景に
は、地方自治体や有識者
団体などからの強い意見
も影響している。山形県
知事や福井県知事(当時)
が全国一律最賃を求める
意見を発信し、秋田県議
会をはじめ最賃の地域間
格差解消を求める決議も
上がり、全国知事会は、
先の参議院選挙で全政党

いまこそ「全国一律最賃」を実現させよう

に対し「地域間格差解消」
を政策提言、全国53の弁
護士会の内38の弁護士会
で最賃大幅引き上げと地
域間格差の是正を求める
決議が上がるなど、日本
の地域最賃の異常な低さ
と地域間格差の解消を求
める声は、全国的に沸き
起っている。

■ ■ ■
そして、そのような世
論の動きを作ったのは、
私たち労働組合の運動の
成果であることも全体の
確信にする必要がある。

時給千円でも、年間18
00時間働いてようやく
180万円であり、ワー
キングプア(働く貧困層)
の基準である200万円
にも及ばない水準である
のに、全国平均900円
という現在の最低賃金額
では、健康で文化的な最
低限度の生活すら保障さ
れないことは明らかであ
る。また、全国どこでも
生活するために必要な額
に大きな差がないこと
を、この間全国各地で実
施してきた最低生計費試
算調査で明らかにさせて
きた。組織内での学習・
宣伝も広げ、最低賃金に
向けた意識を高め、大幅
引き上げと地域間格差の
是正なくして、看護師や
介護職の賃金水準の引き
上げはありえないことを
意思統一する中で、19春
闘要求アンケート結果で
は、政府に求める政策の
第2位に全国一律最賃の
実現が急浮上するほどに
意識が高まってきた。私

たち医療産別以外にも、
若者中心に最賃引き上げ
と格差解消を求める声は
高まり、この1年で急速
に高まったそれらの動き
が、地方自治体や有識者
の声にもつながってきた
と言っても過言ではない
と思う。

■ ■ ■
先の参議院選挙では、
日本維新の会を除く、与
野党すべての政党が最低
賃金の大幅引き上げを公
約に掲げ、市民連合と立
憲野党5党派の政策合意
には、格差是正と最賃1
500円が盛り込まれた。
9月30日には、全労
連主催の最賃引き上げを
めざす国会内集會に、自
民党、立憲民主党、国民
民主党、共産党、社民党
(れいわ新選組はビデオ
メッセージ参加)の各党
代表者が参加し、すべて
の政党が、最低賃金の地
域間格差是正と大幅引き
上げの必要性を訴えた。
であるならば、次期通常
国会で、おおいに最低賃
金の地域間格差是正と大
幅引き上げを議論しても
らおうではないか。安倍
政権の誤った経済政策の
下で、日本の「格差と貧
困」に関する指数は確実
に悪化している。賃金の
下支えである最低賃金を
全国一律にして大幅に引
き上げることなしに、格
差と貧困は解消されない
ことを声を大にして訴え
て、世論をさらに広げる
ために奮闘しよう。

森田 進